

令和8年7月2日
(資料提供)

(事務担当)
所属名：農林総合研究センター 農業試験場
中央普及支援センター 病害虫防除室
直通：257-6972

令和8年度病害虫発生予報第4号について

今後発生が予想される水稻、大豆、果樹、野菜、花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 7月中旬～8月上旬

2 予報内容

(1) 水稻

紋枯病の発生は**多**と予想される。発病を確認した場合、直ちに防除を実施する。

斑点米カメムシ類の発生は**多**と予想される。出穂後の好天により水田侵入が助長されるので、防除を徹底し、斑点米の発生防止に努める。【病害虫発生予察注意報第2号（令和8年7月2日付）参照】

フタオビコヤガの発生は**やや多**と予想される。今後の発生状況に留意するとともに、基幹防除を徹底する。

(2) 果樹

カメムシ類の発生は**多**と予想される。発生を認めた場合は直ちに防除する。

【病害虫発生予察注意報第1号（令和8年6月11日）参照】

アブラムシ類、ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。発生減となる下草を刈り取った後に防除する。

(3) 野菜・花き（さつまいも、やまのいもを含む）

コガネムシ類の発生は**多**と予想される。防除適期は7月上旬から8月上旬である。

シロイチモジヨトウの発生は**多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底するとともに、施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

アザミウマ類、アブラムシ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

オオタバコガの発生は**やや多**と予想される。若齢幼虫の防除を徹底する。施設栽培では、開口部に寒冷紗等を設置して成虫の侵入を防止する。

ネギハモグリバエの発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。